

作文コンクール “Leading to the Future 未来に向かって～教育・夢・感動～”

2020 年 最優秀賞作品「私にとっての先生」

大阪府立寝屋川高等学校 2 年 中西真央さん

私にとっての「先生」は、勉強を教えてくれるだけではなく、生徒と積極的にコミュニケーションをとり、一緒に笑ったり競ったりするような信頼できる存在です。

私は小・中学校を和歌山県の南にある大島で過ごしました。年々生徒数が減少していき、私が中学校三年生のときには一、二年生の入学はなく、全校生徒が三年生七人だけとなりました。

担任の A 先生は、「先生も七人と一緒に成長していく」とよくおっしゃっていました。体育の授業中には先生と競ったり、レクリエーションを企画したり、年齢や立場は関係なく、とても仲が良かったのです。

部活動も校外活動も七人しかいなかったけれど、先生は私たちを様々なことにチャレンジさせてくれました。最初はやる気がなかった私たちを先生が鼓舞してくれ、英語劇を完成させ発表できた時には、全員で大泣きし、本当にやって良かったと思いました。

特に忘れられないのは、部活動のソフトテニスの試合で、初めて二回戦負けし、県大会に進めなかった時のことです。私のミスが多く、ダブルスのペアだった友人とは気まずい関係になり、練習中も話すことはなくなりました。その様子を見ていた先生は、私と友人それぞれ一人ずつ話をじっくりと聞いてくれました。ペアの友人に言えないことも先生が吐き出させてくれたので、二人で話し合うことになった時には気持ちに整理がついていて、思っていることを初めて友人に吐き出すことができました。その日から二人で 毎日時間があれば練習し、最後の大会で優勝することができました。

先生は私の一番の理解者で、私が悩んでいるとすぐに気づいてくれ、いつも真正面から私とぶつかってくれました。怒るときには本当に厳しく、私たちを育ててくれました。私たちにとってはもう第二の母親です。

生徒が少なかった分、先生との関わりが深くなったという面もあるとは思いますが、それよりも、先生と一緒に喜んだり、泣いたり、たくさんのことをとともに経験してくれたからこそ先生を信頼でき、私自身も随分成長することができたのだと思います。この経験から、私も A 先生のように何をするにも前向きに取り組めるような雰囲気を作れる先生になりたいと思うようになりました。現在私は、全校生徒 1080 人の高校に通っています。生徒だけでできることが増え、中学校とは違った学校生活を楽しんでいます。将来は大阪府で小学校の先生になりたいと思っていますが、どんな規模の学校であっても、子どもたちとコミュニケーションをしっかりとって、勉強の時間はもちろんのこと、休み時間や部活動でも、一緒に楽しんだり悩んだりしていく中で、私が先生にしてもらったことを子どもたちに返していきたいです。